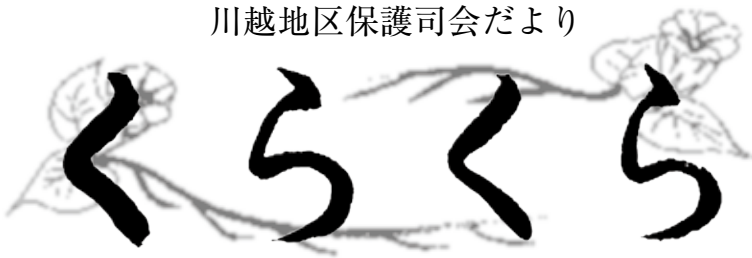


生

人はみな
生かされて
生きてゆく

川越地区保護司会だより



第9号

令和2年7月1日

編集・発行
川越地区保護司会

事務局
富士見市役所
福祉課内

坂戸市の社会を明るくする運動について

坂戸市長 石川 清

保護司の皆様には、

平日頃から更生保護活動を通じ、犯罪や非行をした人の立ち直りを支えるとともに、犯罪や非行の予防にご尽力を賜り、心より御礼申し上げます。

坂戸市では、「社会を明るくする運動」の一環として、7月に保護司と市内各種団体が協力して若葉・坂戸・北坂戸の3駅周辺において啓発リーフレットの配布等を行う「非行防止及び社会を明るくする運動街頭キャンペーン」を実施するほか、保護

司の皆様には市内中学校を訪問していただき、啓発品の配布や先生や生徒と対話を行うなど、様々な活動を行っています。

坂戸市においても、子どもは社会の宝であるという考えから、子どもが安心して放課後を過ごせる場所として重要な学童保育所の建替え工事など子育て支援施策の充実や、小学4・5年生の学習支援を目的とした学力のびのび塾の充実など、子どもの健全育成に努めてまいります。

保護司の皆様におかれましては、「市民

犯罪のないまちづくりのために

鶴ヶ島市長 齊藤 芳久



川越地区保護司

会の皆様方におかれましては、日頃から、犯罪や非行をした人の社会復帰のための支援や、地域の犯罪・非行の予防など、様々な活動を通して、犯罪のないより明るい社会づくりにご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

鶴ヶ島市では、毎年7月の「社会を明るくする運動強調月間」に、市内5つの中学校と県立鶴ヶ島清風高校を保護司の皆様が訪問していただき、啓発物品の配布により犯罪や非行防止の呼びかけを行って

ただいております。

本年3月、「第6次鶴ヶ島市総合計画」を策定し、10年後の将来像として「しあわせ共感 安心のまち つるがしま」を掲げました。この計画でも、青少年の健全育成や防犯対策など健全な人づくり、安全な地域づくりはもとより、相談支援の充実、雇用の創出と就労対策など誰もが安心して支援を受けられる施策に取り組んでいくこととしています。

保護司の皆様方には、今後も、犯罪や非行からの立ち直りなどの支援に一層のお

が安全で安心して暮らせるまちづくり」のために今後も一層のお力添えを賜りますとともに、川越地区保護司会の発展と会員皆様ますますのご活躍をご祈念申し上げます。



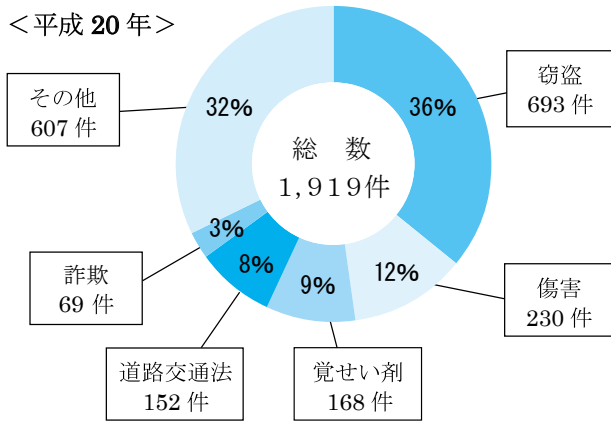
千葉刑務所参観研修(令和元年10月15日) =鈴木峻也撮影

力添えを賜りたくお願い申し上げますとともに、ますますのご活躍をご祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。

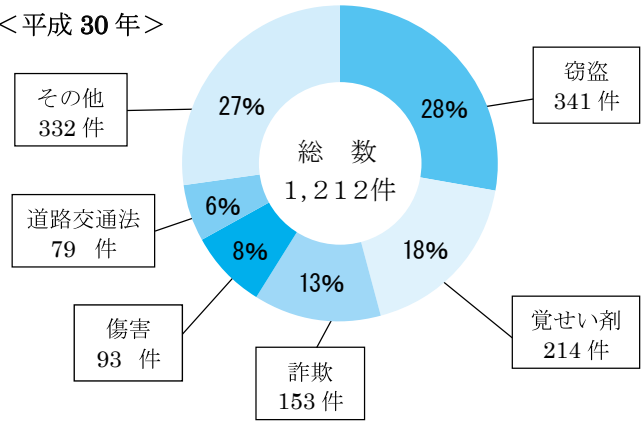
数字で見る埼玉県内の犯罪及び保護観察等の状況

1. さいたま保護観察所内の非行名・罪名新受件数(『さいたまの更生保護』平成21年版・令和元年版より)
 犯罪件数は減少傾向となっている中で「覚せい剤」と「詐欺」が実増しており、全国比の中でも詐欺の占める割合が特に高くなっている。

<平成20年>



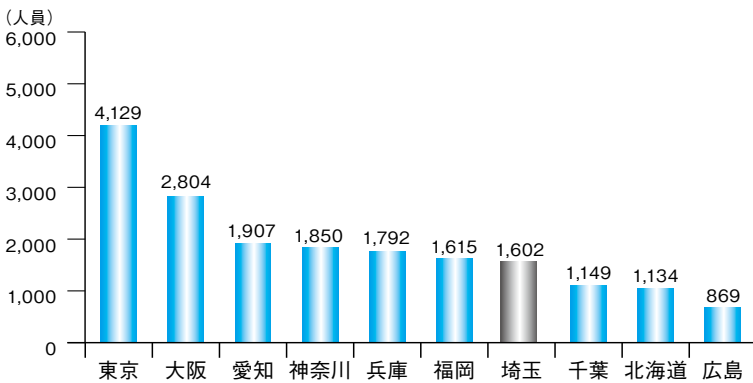
<平成30年>



2. 埼玉県の少年非行情勢について(『令和元年版少年非行白書』より)

検挙・補導人員は全国で30,458人で、埼玉県1,602人で昨年と同じく7番目となっています。内訳を見ると男女比率は、男子1,382人(86.3%)で、女子220人(13.7%)。罪種別では、窃盗犯が1位で921人(65.1%)となっています。前年比では知能犯が増加しています。

都道府県別検挙・補導人員(平成30年)



年度別・居住地別検挙状況
(刑法犯少年の人口比)

	26年	27年	28年	29年	30年
川越市	6.8	6.2	3.5	3.4	2.5
坂戸市	9.4	6.4	5.8	6.1	3.4
鶴ヶ島市	8.0	7.2	9.2	5.3	3.1
富士見市	9.8	4.9	4.8	4.9	2.0
ふじみ野市	6.4	4.7	2.7	2.5	1.8
全国	6.8	5.5	4.5	3.7	3.4

*人口比とは14歳から19歳の人口千人当たりの検挙人員をいう。30年は、全国(3.4)の中で埼玉県(3.5)が14番目、1番が沖縄県(5.1)、2番が福岡県(4.5)、3番が東京都(4.4)でした。

3. 地域別保護観察等の取り扱い状況(令和元年12月)

地域	項目	人口(千人)	保護司数(人)	保護観察(件)	生活環境調整(件)	合計	
						件数	一人当たり担当件数
川越		354	52	41	62	103	2.0
坂戸		101	14	14	19	31	2.2
鶴ヶ島		70	11	9	7	16	1.5
富士見		110	20	18	20	38	1.9
ふじみ野		113	16	17	35	52	3.3
川越地区		748	113	99	141	240	2.1
埼玉県		7,339	1,502	1,372	1,810	3,182	2.1

*保護観察とは、罪を犯した人を一般社会で生活させながら、保護司が1か月に2回以上接触をし、生活上の助言や就労の援助などを行い、その立ち直りを助けることです。

*生活環境調整とは、刑務所や少年院に収容されている人が、釈放後に社会復帰が円滑に果たせるように、帰住先の調査や家族・引受人、就職先などと話し合い、受け入れ態勢を整えてやることです。

主 薬物依存からの回復を地域で 支えるために

覚せい剤や大麻などの違法薬物を使用する人に対して、社会の多くの方は「怖い」とか「自分とは全くかけ離れた世界の人だ」というイメージを持つのではないのでしょうか。しかし、実際に彼らに出会うと、一概にそうだというわけではないことがよくわかります。

違法薬物を使用するようになったきっかけは人によって様々であり、そこに至るまでの生活背景も千差万別です。もともと犯罪や非行とは遠いところで生活を送っていた人もたくさんいます。しかし、最初は「1回くらいなら。」とか「ちょっとだけ試してみよう。」といった軽い好奇心で手を出したはずが、使用回数を重ねるうちにいつの間にか薬物依存の状態となり、薬物使用を中心に生活が回るようになっていってしまうのです。違法薬物を使用していることを隠すために家族や友人にうそを重ね、次第に孤立していってしまう人もたくさんいます。薬物依存の怖さは、自分でも気付かないうちに、自分の生活が支配され、人生を狂わされてしまうところにあるともいえるでしょう。

違法薬物の使用又は所持などの罪により裁きを受け、保護観察を受けることになった人達の多くは、「もう薬物はやめたい。」「薬物に振り回される生活に戻りたくない。」と言います。逮捕されたことにより、その時点で違法薬物の使用は一旦ストップしていますので、保護観察の始まりは、違法薬物を使用しない生活を社会の中で再建していくためのスタートラインとして非常に重要な意味を持ちます。一旦薬物依存の状態に陥ったことのある人は、断薬の意思にかかわらず、再び薬物使用の欲求が起きることがありますので、まずはそのことを本人に自覚してもらうことが肝要です。保護観察所で実施する薬物再乱用防止プログラムでは、保護観察官との面接やグループワークを通じ、自分ほどのようなときに薬物使用の欲求が起きやすいのか、欲求が起きやすい状況にどのように対処するのか、といったことについて具体的に考えを深め

ていきます。また、人間関係の問題があるなど、何らかの生きづらさを抱えている人も多いことから、保護司が定期的な面接の中で一人の人として本人と向き合い、信頼関係を築いていく過程は、自分を大切にしようとする姿勢を育むこととなり、薬物の再使用を遠ざけることにつながります。

しかし、それでも薬物使用の欲求が再び起きることがあります。保護観察が終了すると、気の緩みが生じやすい上、相談相手となっていた保護司や保護観察官の存在もなくなるため、薬物再使用のリスクが高まります。薬物依存からの回復の道のりは、むしろ、保護観察終了後が本番といえるかもしれません。長い期間にわたって薬物再使用を防いでいくためには、薬物依存からの回復を支援する地域の医療や保健福祉機関、ダルク等の民間団体の支援につなげていくことが重要だと考えています。

平成27年、法務省と厚生労働省の協働で「薬物依存のある刑務所出所者等に対する支援に関する地域連携ガイドライン」が策定されました。これは、違法薬物に対する依存のある人への支援について、刑務所や保護観察所等の刑事司法機関と地域の医療や保健福祉機関、民間団体とが連携して取り組み、その回復を支えていこうとするものです。違法薬物の使用は犯罪行為であると同時に、薬物依存という病気でもあるという視点を持ち、偏見や先入観を排して地域全体として薬物依存からの回復と社会復帰を支援することが、今、求められているのです。

薬物依存の問題を抱える人の多くは、違法薬物を使用することを「もうやめたい。」と心の中で願いながら、再使用の欲求に何とか対処しようともがいています。違法薬物の使用をやめ続けるためのサポートを必要としている人達がたくさんいることを地域の皆様にも御理解いただけたらと願っております。

(さいたま保護観察所 統括保護観察官 大谷治子)

学校教育の中で大切にしたいこと

青少年が関係する衝撃的な報道を見聞きするたびに、子どもたち自身の「生命の尊さ」に対する考えが、大人が考えるそれとは乖離しているように思うことがあります。社会や子どもたちを取り巻く環境の変化に伴い、家族の形態や生活の様式も変わり、人との関わりも希薄になっていると言われます。食生活や医療が進歩し、概して健康な生活ができる現代の子どもたちの中には、健康や生命に対するありがたみでさえ、薄くなっている者もいるでしょう。それ故か、深く考えずに辛辣な言動を見せる等、軽はずみな行動が大きなことにつながっているように思えます。

このような中において、学校教育の中で大切にしたい教育活動について改めて考えてみます。それは、「学ぶことへの意欲と主体性を育むこと」「挑戦させ、感動させるような体験を数多く与えること」「自分を律することができるようにすること」「あいさつや清掃などの活動とおして心を磨かせること」であり、これらのことを重視し、子どもたちの自尊感情や自己有用感を高めさせたいと考えています。将来の予測が困難な社会において、これらのことは子どもたちに今後も必要な資質や能力であるとも言えます。

本市では、「生きる力と学びを育む川越市の教育」の実現に向けた施策を推進しています。特に、本市における「いじめ対策」と「学力向上対策」については、

喫緊の課題であると認識しています。前者の「いじめ対策」は、「生命の尊さ」を考えると関連する部分が多くあり、まさに学校教育の中で大切にしたいことの優先度が高い事柄でもあります。子どもたちの健やかな成長を促すには、彼らが一日の大半を過ごす学校教育の枠組みの中で、様々なアプローチをするとともに、「社会に生きる存在」として、家庭や地域の力も必要不可欠です。子どもたちはそれぞれの家庭、それぞれの地域で育っています。その家庭やその地域の環境や考え方、背景なども、学校は丁寧に見取っていく必要があります。学校生活における子どもたちの様子だけが全てではありません。一見、何事もないかのように過ごしている子どもも、実は人知れず悩みを抱えていることもあります。どの子どもも「よくなりたい」「変わりたい」という気持ちがあるものと信じています。そんな子どもたち一人ひとりにいかに寄り添い、いかに子どもたちの声に耳を傾けるか。日々、子どもたちと接する教師は、子どもたちの思いを確実に受け止めることができるよう、常にその資質や力量を高めるよう努めなければなりません。

「未来の川越を担う子どもたち」のために、子どもたち自身が「川越で学んだ」と胸を張って言える、そのような取組を引き続き進めてまいります。

(川越市教育委員会教育長 新保 正俊)



社会を明るくする運動(社明運動)

第69回「社会を明るくする運動」埼玉県作文コンテストの入賞者

小学生の部

埼玉県更生保護女性連盟会長賞

富士見市立水谷東小学校6年(現在、中学1年)

上島 照平(うえしま しょうへい)

題名「ほくができること」

「サポートセンターふじみ野」が始動

「川越地区更生保護サポートセンターふじみ野」が開設されました。

開所式は、令和2年3月26日(木)午前10時から「大井総合福祉センター」3階の「健康相談室」で行われました。

埼玉県内には25の保護区があり、そのうち24の保護区には「更生保護サポートセンター」が開設されており、最後の砦となった川越地区に待望の更生保護サポートセンターがオープンしました。正式名称は、「サポートセンターふじみ野」です。令和2年度の開設日時は左記のとおりです。

一、開設日時

毎月第2・第4木曜日 午前10時から午後4時まで(ただし、午後0時から1時までは昼食休みです)

二、相談会場は、「大井総合福祉センター」3階健康相談室

三、更生保護サポートセンターは、地域における更生保護活動の拠点です。

- ① 保護司の処遇活動への支援・面接場所の提供、保護司同士のケース協議など
- ② 地域における犯罪・非行防止活動の推進
…一般相談やセミナーの実施など
- ③ 更生保護女性会などの活動等への支援など

を主な役割としています。



支部だより



川越支部

「住めて幸せ」川越1位・近頃の「報道」より

この数年蔵造り通りを歩くと、東南アジア系の若者が着物姿で散歩しながら、店先で売られる芋ドーナツや揚げ饅頭を手に、大声で会話する光景に出あいます。外国人客過去最高の31万人。人気は「氷川神社縁結び風鈴」「時の鐘」「菓子屋横丁」「喜多院五百羅漢」・昨年川越を訪れた観光客は775万7千人、SNSの発信もありこれまでの最多となりました(1/31読売県版)。

わが町川越は、歴史や文化が豊かな中核市です。昨年(11、12月)全国83市の市民に「幸福度」「満足度」などを調査した「市版SDGs調査」で全国1位となりました(2/2読売県版)。これは交通の利便性も良く、地域経済が活発であることも回答に反映されたとしています。来年は東京五輪でゴルフ競技会場。そして2022年に「市政施行百周年」を迎え、市民の地元への関心が更に高まっています。(関根みどり)

鶴ヶ島支部 「ミャンマーのホストタウン & 雨恋いのまち鶴ヶ島」

2017年にオリンピック・パラリンピックに向けてミャンマー連邦共和国のホストタウンになった鶴ヶ島は、スポーツだけでなく、歴史・文化の学習や市民との交流を従来に増し深めています。選手の事前キャンプの受け入れはもとより、ミャンマーを身近に感じられる交流イベント・子どもたちの育成やグローバル化の推進など、多くの分野で事業展開中です。また、脚折雨乞は江戸時代に端を発し、竹と麦わらで作られた巨大な龍蛇を男衆が担ぎ練り歩き、池に入って暴れまわる降雨祈願の奇祭で、「雨恋いのまち 鶴ヶ島」として4年毎に開催され、今年9月13日に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染の影響で見送りになりました。(久保島久利)

富士見支部 「わがまちふじみ」

富士見市には鉄道の駅が3つあります。大正にできた「鶴瀬駅」、昭和にできた「みずほ台駅」、平成にできた「ふじみ野駅」です。これまでの地下鉄有楽町線に加え、地下鉄副都心線。さらに、平成25年3月には、東武東上線と東急東横線、横浜高速みなどみらい線との相互直通運転(東京メトロ副都心線経由)が開通しました。

水子貝塚公園は竪穴式住居を復元し、縄文時代のムラを再現した公園です。また、難波田城公園は、中世の城館跡の一部を整備した歴史公園があります。

古くから伝わる「天王様」、人々を疫病から守ることを祈願する夏の年中行事。当日は地区内を囃子や神輿が練り歩きます。(林 克己)

ふじみ野支部

「住みよさナンバーワンの更なる持続をめざして」

日本における出生数が昨年90万人を割り86万人余りになりました。

1989年の統計開始以来、過去最低の数字で想定を上回るペースで少子化が進んでいます。そんな数字を尻目に「わが街ふじみ野市」は、2005年合併以来15年、ほぼ毎年のように人口が増え続けている県内有数の人気スポットです。昔懐かしい老舗店から近代的な新店舗まで新旧のトレンドが詰まったふじみ野市は住みよさ埼玉県ナンバーワンの評価をいただいております。都心へのアクセスも良く、緑豊かな武蔵野の文化の香りただようふじみ野市、私の自慢の街なのです。(立花明夫)

坂戸支部 「花のまちさかど」

坂戸市の自慢は、高麗川を始めとした清流が育む四季折々の花々です。特に桜の名所は数多く、早咲きの桜並木が続く北浅羽桜堤公園では、毎年「坂戸につさい桜まつり」が開催され、一足早い春の到来を感じることができます。初日には、よさこい演舞や伝統芸能などが行われるほか、物産PRや販売もあり、大勢の人でにぎわいます。

昨年は9日間に渡って開催され、延べ約8万4千人の来場者がありました。こうした花の名所は、地域の住民や市外から訪れた方など、楽しんでいただけたものだと思います。(綿貫幹雄)

第十五回埼玉県保護司会連合会主催 チャリティ親善ゴルフ大会結果報告

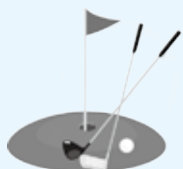
令和元年10月29日(火)生憎の雨の中、総勢103名という参加人数で、鴻巣カントリークラブにてチャリティ親善ゴルフ大会が開催されました。

その結果、優勝はふじみ野支部の星野喜由さん、準優勝は関根政男さん、3位には村田昇治さんが入賞されました。ハンデキャップ方式あり、隠しホールありの新ペリア方式で行われました。

最初のティショットから最後のホールアウトまで、参加者全員が和気あいあいとプレイを楽しみ、和やかな雰囲気の中で過ごすことができ、更に親交を深めることができました。グロス第1位は、77で回られた谷古宇則雄さん、第2位は84で回られた新井茂さん、第3位は3人おられまして85で回られました松本博道さん、土屋薫さん、会田貢平さんでした。チャリティで集まったお金は毎年更生保護法人「清心寮」に寄付しております。

次回も多数のご参加をお待ちしています。

(文責 大谷英二)



令和2年度 事業計画

- 5月 第1期統一研修会・総会：中止
- 7月 第70回社会を明るくする運動：各支部で検討
- 9月 川越地区保護司会 70周年記念事業：中止
第2期統一研修会
- 10月 施設参観研修
- 11月 第67回埼玉県更生保護大会
第3期統一研修会
- 1月 第4期統一研修会・新年会

川越地区保護司会活動報告

専門部会

- ・総務部会 一回
- ・研修部会 四回
- ・犯罪予防活動部会 三回
- ・更生援助活動部会 三回
- ・広報部会 六回
- ・七〇周年記念事業実行委員会 六回

令和元年度 保護司等の表彰者

藍綬褒章 小川 茂
法務大臣表彰 原田 恒義

矢部 美知子
吉澤 憲治

令和元年度 保護司の異動

退任 熊谷 洋興(ふじみ野)
山田 嶋秀浩(川越)
山崎 貢(ふじみ野)

編集後記

◆「くらくら第9号」をお届けします。
◆巻頭には、坂戸市長石川清さんの「坂戸市の社会を明るくする運動について」と、鶴ヶ島市長齊藤芳久さんの「犯罪のないまちづくりのために」と題しまして、原稿をお寄せいただきました。
◆また、さいたま保護観察所の大谷治子統

- 山田 吉典(川越) (以上 5月24日付)
- 小谷野 宏昭(坂戸)
- 鈴木 駿也(坂戸)
- 円谷 康平(坂戸) (以上 11月30日付)
- 新任 浅見 一広(川越)
- 大河原 綱吾(川越)
- 澤登 浩裕(川越) (以上 5月25日付)
- 宮崎 直之(川越) (以上 12月1日付)

下記の問題については、それぞれの相談窓口へ

◆「STOP!いじめ」に関する相談は一人で悩まず相談しましょう
よい子の電話教育相談
子供専用(18歳以下) **0120-86-3192** へ
保護者専用 **048-556-0874** へ

◆「非行防止」に関する相談は
非行防止相談室＝鑑別所で心理職の職員が担当。子育てに悩む親や教師、少年自身などの相談を一般向けに受け付けています。相談や来所の予約は、
さいたま少年鑑別所 **048-862-2051** へ
全国共通相談ダイヤル **0570-085-085** へ

◆「違法薬物？」に関する相談は
ホワイトテレホンコーナー **048-822-4970** へ
ヤングテレホンコーナー **048-861-1152** へ

◆「薬物問題に悩むご家族の方々」は
NPO法人 埼玉ダルク家族会
048-823-3460 へ

◆「24時間子供SOSダイヤル」
いじめや自殺など子供のSOS全般に悩む子供や保護者などの相談窓口は、
0120-0-78310 へ

括保護観察官には、「薬物依存からの回復を地域でささえるために」と題しまして、薬物使用者の心情や回復へのプロセスについてお書きいただきました。
◆教育長バトンリレーでは、川越市の新保正俊教育長に「学校教育の中で大切にしたい教育活動」について、「川越市の教育」を中心ににお書きいただきました。野田女児虐待死、目黒女児虐待死など、痛ましい事件が新聞紙上を賑わしました。子供が安心して暮らせる社会にするため、大人が親が真剣に考えなければいけないのではないのでしょうか。
◆この一年間様々な事が起こりました。昨年(令和元年)末に中国武漢で発生したとされる「新型コロナウイルス」は、あつという間に全世界を巻き込み、世界の感染者数は652万4千人を超え、死者数も38万6千人を超えてしまいました(令和2年6月4日時点のジョンズ・ホプキンス大学の集計から)。封鎖された武漢から5回にわたりチャーター機で日本人等を帰国させたことや、横浜に接岸したクルーズ船の乗客の様子が連日報道されたことが記憶に残っております。

◆令和2年3月24日に、IOCパッハ会長と安倍晋三首相等との電話会談で、「2020オリンピックとパラリンピック」が来年(令和3年)夏まで1年間延期されることになりました。オリンピックとパラリンピックを予定して経済活動を計画していた方たちは大きな打撃を受けることになりました。

◆国民生活もオイルショックを思い出すかのように、トイレレットペーパーやティッシュペーパーが店頭から姿を消し、マスクはどこを探しても見つかりませんでした。ネットでは高値で販売する不心得者も現れました。卒業式も入学式も中止、春の選抜高校野球もインターハイも中止、祇園祭や葵祭、青森ねぶた祭りも中止、全ての学校は長い春休みに入り休校になりました。また、各種総会やコンサート、演劇、文化活動も中止を余儀なくされました。また、カタカナ語が飛び交いました。5月25日「緊急事態宣言」が全面解除されましたが、第2波を警戒しながら、新型コロナウイルスが一刻も早く終息することを願って止みません。(大谷英二)

広報委員

- 守屋 裕子(川越)
 - 関根みどり(川越)
 - 綿貫 幹雄(坂戸)
 - 長野 佐七(坂戸)
 - 久保島久和(鶴ヶ島)
 - 柏木 美之(鶴ヶ島)
 - 酒本 三郎(富士見)
 - 本橋 義明(富士見)
 - 星野ツネ子(富士見)
 - 大谷 英二(ふじみ野)
 - 野村 茂(ふじみ野)
- 会計 副部長
部長